

化学殺虫剤

オルトラン粒剤

有効成分：アセフェート（PRTR・1種）5.0%

作用機構分類：殺虫剤分類 1B

登録番号：第19993号

性 状：類白色細粒

有効年限：4年

包 装：3kg×8袋

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセフェートを含む 農薬の 総使用回数		
キャベツ	アオムシ、コナガ ヨトウムシ アブラムシ類 ネキリムシ類	3～6kg/10a (1～2g/株)	定植時	1 回	植穴処理	2 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以 内、定植後の 散布は 1 回以 内)		
	アザミウマ類	6kg/10a (2g/株)	育苗期		散布			
	アブラムシ類	6g/㎡						
トマト	アブラムシ類 オンシツコナジラミ	3～6kg/10a (1～2g/株)	定植時		作条散布 又は植穴処理	1 回		
	ネキリムシ類				植穴処理			
きゅうり なす	アブラムシ類 アザミウマ類 オンシツコナジラミ				作条散布 又は植穴処理			
	ネキリムシ類				植穴処理			
はくさい	アオムシ、コナガ ヨトウムシ アブラムシ類 ネキリムシ類						株元散布	
ブロッコリー	ヨトウムシ アザミウマ類 ネキリムシ類 アオムシ	3～4kg/10a						は種前

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
かぶ	アブラムシ類 ネキリムシ類	4kg/10a	収穫 21 日前 まで	1 回	株元散布	1 回
オクラ	アブラムシ類	6kg/10a (2g/株)	収穫開始 14 日前まで			
ごぼう		3～6kg/10a	収穫 75 日前 まで			
れんこん		4kg/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布 無人航空機 による散布	2 回以内
ばれいしょ		3～6kg/10a (1～2g/株)	植付時	1 回	作条散布	3 回以内 (植付時の処 理は 1 回以内 、植付後は 2 回以内)
えだまめ	ハスモンヨトウ	3～6kg/10a	収穫 21 日前 まで	3 回以内	生育期株元散布	3 回以内
なばな類	アブラムシ類	6kg/10a	定植時	1 回	植溝土壌混和	1 回
こまつな	アブラムシ類 ネキリムシ類		は種時		播溝土壌混和	
花き類・ 観葉植物 (きく、宿根スター チス、カーネーショ ン、アリウム、た であいを除く)	アザミウマ類 アブラムシ類	3～6kg/10a	発生初期	5 回 以内	株元散布	5 回以内
宿根スターチス	ヨトウムシ類 ネキリムシ類	6kg/10a				
	アザミウマ類 アブラムシ類	3～6kg/10a				
カーネーション	コガネムシ類幼虫 ヨトウムシ類	6kg/10a				
	アザミウマ類 アブラムシ類	3～6kg/10a				
アリウム	コナガ ヨトウムシ類	6kg/10a				
	アザミウマ類 アブラムシ類	3～6kg/10a				
きく	ネギコガ ヨトウムシ類	6kg/10a				
	アザミウマ類 アブラムシ類	3～6kg/10a				
きく	アザミウマ類 アブラムシ類	3～6kg/10a				
	ネキリムシ類 ハモグリバエ類 ヨトウムシ類 コガネムシ類幼虫	6kg/10a				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
つつじ類	ツツジグンバイ	12kg/10a	発生初期	5 回以内	株元散布	5 回以内
	ケムシ類		生育期 (樹高 2m 以下)			
とどまつ	アブラムシ類	5g/樹				
樹木類 (つつじ類、とどまつ、ポインセチアを除く)	ケムシ類	12kg/10a				
たदैあい	アブラムシ類	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊 (30×60cm、使用土壌約 1.5～4L) 当り 50g	定植時	1 回	本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する。	1 回
		6kg/10a			株元散布	
いぐさ	イグサシロムシガ	4kg/10a	生育期	2 回以内	湛水散布	2 回以内
芝	スジキリヨトウシバツガ	10kg/10a	発生初期	5 回以内	全面散布	5 回以内
	タマナヤガ	5～10kg/10a				
たばこ	ヨトウムシ、ネキリムシ アブラムシ類 アザミウマ類 ジャガイモガ ヤサイゾウムシ	3～6kg/10a	移植前	1 回	作条散布後 土壌混和	2 回以内
	アブラムシ類		本畑初期		株元散布	

[特 長]

- * 植穴処理や株元散布によってアブラムシ類やアザミウマ類などの吸汁性害虫のみならず、ヨトウムシ、アオムシ、コナガなどの食害性害虫まで広く同時に防除できます。
- * 高い浸透移行性により作物のすみずみに行き渡り、害虫をむらなく防除します。
- * 効果の持続期間が長く、省力的な害虫防除ができます。
- * 水利の便の悪いところや施設内でも手軽に使用できます。
- * 優れた殺虫効果と長い残効性により、促成施設栽培では植穴処理をすることにより、施設のサイドが開いていてまだ天敵を放飼できない期間、害虫の初期発生を予防してくれます。

[使用上の注意事項]

- * 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- * 土壌が極度に乾燥している時は使用しないこと。
- * 芝のスジキリヨトウ、シバツトガ及びタマナヤガの防除に使用する場合は、散布後10アール当たり500～1000Lの散水処理は有効である。
- * いぐさ・れんこんに使用する場合は、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも7日間は通常の湛水状態を保ち落水、かけ流しはしないこと。
- * 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- * ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - (1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - (2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - (3) 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- * つまみ菜、間引き菜に使用しないこと。
- * みずかけな(水掛菜)、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用後14日間は入水しないこと。
- * 樹木類に使用する場合は、樹高2mを超えるような成木では効果が劣るので使用しないこと。
- * 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

〈たばこに使用する場合には次の注意事項を守ること〉

- * 本剤が葉に付着すると、薬害を生じるのでかからないように注意して散布すること。
- * 本剤を誤って過剰に使用した場合は薬害(下葉の黄変、葉縁の褐変)を生じることがあるので散布量を厳守すること。
- * ヨトウムシの防除については処理時期から発生までの期間が長くなった場合には、効果が劣ることがあるので、その場合には、他の散布剤を併用すること。

〈本剤を無人航空機で散布する場合は、次の注意事項を守ること〉

- * 専用の粒剤散布装置によって散布すること。
- * 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
- * 散布薬剤の飛散によって他の動植物等に影響を与えないよう散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。

[安全使用上の注意事項]

- * 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
 - * 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
 - * 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。
- 治療法…本剤の解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。